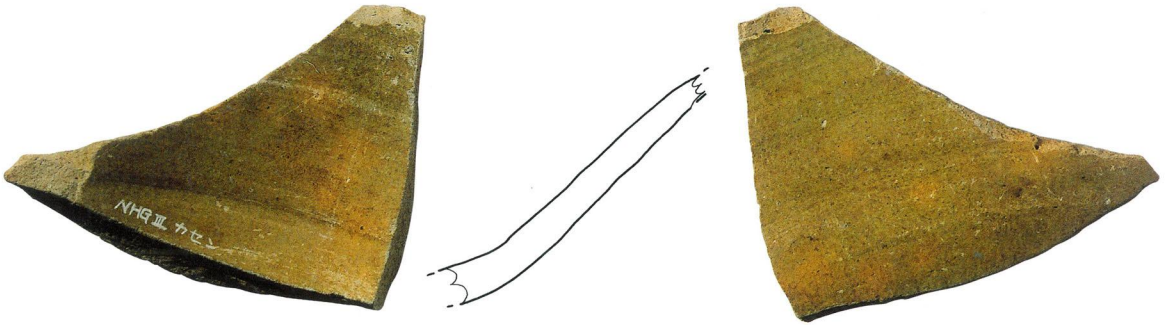


# 東五里田遺跡Ⅲ

長野県佐久市野沢東五里田遺跡Ⅲ発掘調査報告書



東五里田遺跡調査区近景（西方から）



二彩陶器（M2号溝状遺構出土）

2008.3

株式会社 泉鉄工  
佐久市教育委員会

## 例 言

1. 本書は、株式会社 泉鉄工が行う宅地造成に伴う東五里田遺跡Ⅲの発掘調査報告書である。
2. 調査原因者 株式会社 泉鉄工 代表取締役 荒井 登
3. 調査主体者 佐久市教育委員会
4. 遺跡名及び所在地 東五里田遺跡Ⅲ(NHGⅢ)  
佐久市野沢394-4
5. 調査期間及び面積 調査期間 平成19年7月26日～平成19年8月27日  
調査面積 225㎡ (開発面積1,273 ㎡)
6. 調査担当者 林 幸彦 佐々木宗昭
7. 本書の編集・執筆は、林が行った。
8. 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

## 凡 例

1. 遺構の略記号は、住居址(H)・土坑(D)・溝状遺構(M)・ピット(P)である。
2. 挿図の縮尺は次のとおりである。下記以外の物については挿図中にスケールを示す。  
住居址1/80 土坑1/60 土器1/4
3. 遺構の海拔標高は各遺構ごとに統一し、水系標高を「標高」として示した。
4. 土層・遺物胎土の色調は、1988年版『新版 標準土色調』に基づいた。
5. 調査区グリットの、間隔は4×4mに設定した。

## 目 次

### 例言・凡例・目次

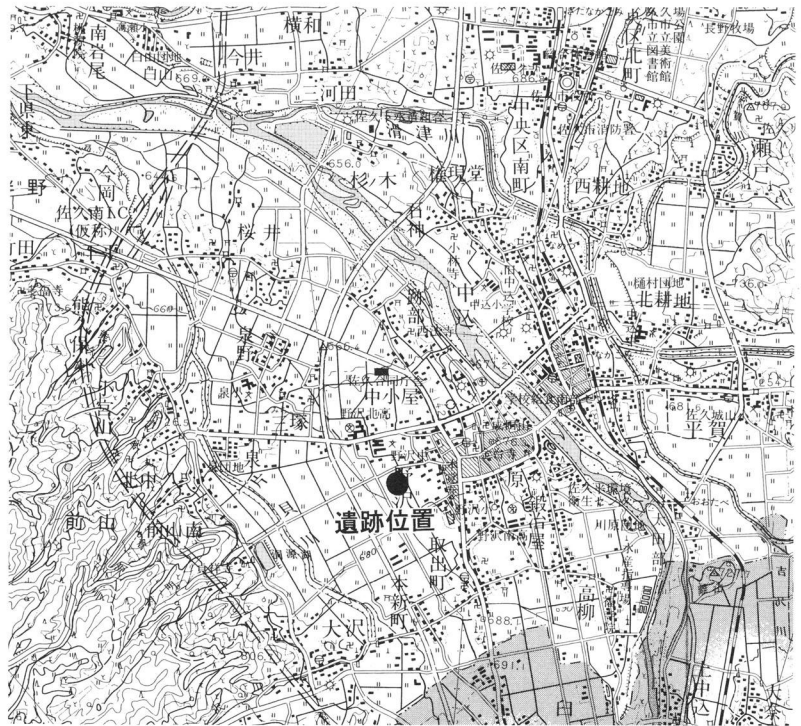
#### 第I章 発掘調査の経緯

1. 立地と経過
2. 調査体制

#### 第II章 遺構と遺物

1. 竪穴住居址
2. 土 坑
3. 溝状遺構

### 抄 録



第1図 東五里田遺跡Ⅲ位置図 (1:50,000)

# 第 I 章 発掘調査の経緯

## 1. 立地と経過

東五里田遺跡は、佐久市のほぼ中心の野沢にあり、千曲川の西約 1 km の沖積氾濫原の堆積地に位置している。標高は 675 m を測る。この付近は、野沢平とも呼ばれ千曲川および並流する片貝川の洪水・堆積・浸食により、両河川の間には沖積微高地が形成されている。東五里田遺跡が所在する沖積地や片貝川西側の山地と台地上には、数多くの遺跡がみられる。西側の山地と台地上では、旧石器時代の立科 F 遺跡、縄文時代後沢遺跡・榛名平遺跡・中村遺跡・滝の下遺跡等が調査されている。沖積低地からは、集落は確認されていない。弥生時代では台地上で中期・後期の後沢遺跡・竹田峯遺跡・榛名平遺跡が調査されている。沖積微高地上では弥生時代の集落は知られていなかったが、近年になって中道遺跡Ⅱや宮浦遺跡群・平馬塚遺跡群で後期の竪穴住居址が確認された。さらに、本遺跡の野沢中学校新築に伴う東五里田遺跡Ⅰの調査では、佐久地方では稀な弥生時代前期の土器群と石器群が発見され、貴重な資料を提示した。古墳時代～平安時代では、国道 141 号・142 号築造事業や各種開発等に伴う調査によってこの沖積微高地上で多くの集落が検出されている。

今回、株式会社泉鉄工が宅地造成を行うことになり、佐久市教育委員会が試掘調査を行った。結果、遺構が発見されたため保護協議を行い、宅面は盛り土により基礎工事が遺構確認面まで達しない配慮をし、新設の道路部分に対して記録保存目的の発掘調査を行う事となった。

## 2. 調査体制

調査主体者 佐久市教育委員会 教育長 木内 清  
事務局 社会教育部長 柳沢義春 社会教育部次長 山崎明敏 文化財課長 森角吉晴  
文化財調査係長 三石宗一 文化財調査係 並木節子 林 幸彦 須藤隆司 小林真寿  
羽毛田卓也 神津 格 富沢一明 上原 学 出澤 力  
調査担当者 林 幸彦 佐々木宗昭



第 2 図 東五里田遺跡Ⅲ周辺遺跡位置図 (1:10,000)

調査員 赤羽根充江 磯貝律子 狩野小百合 澤井知春 清水澄生 清水律子 春原幸子  
 大工原達江 田中ひさ子 林 まゆみ 日向昭次 中山清美 堀籠保子 山元有美子

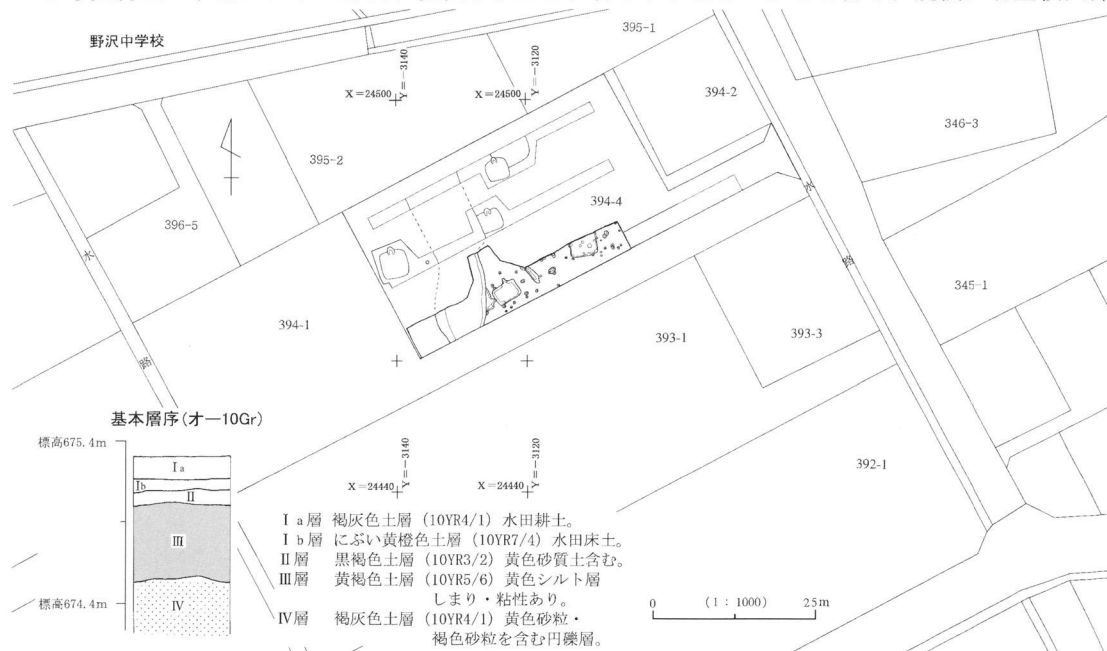
## 第Ⅱ章 遺構と遺物

**H1号住居址** 本址はカ・キ-12・13Grに位置し、P15を切りH3・P5に切られる。規模は北壁3.9m、南壁3.6m、東壁2.4m、西壁2.6mを測り、隅丸長方形を呈する。壁残高最深34cmを測り、カマドを中心とする主軸方位はN-30°-Wを示す。P1が径20cm深さ9cm、P2が径24cm深さ14cm、柱痕は認められなかった。床は平坦で固く敲击締められている。深さ2~10cmの周溝が、カマド部分と南壁の中央付近を除き壁下を巡る。カマドは北壁の中央に設置され両袖の芯に礫を埋め込んだと見られる小ピットが確認された。火床と煙道の一部が残る。火床から煙道にかけて黄色シルト土で形状を整えている。須恵器、土師器、石器が出土。1・2がⅢ区、3~6がカマドから出土した。3・6は土師器甕で、3の外側ヘラケズリは底部までされ、底部薄い仕上げである。1は外側ヘラナデの後一部ヘラミガキされる。内面の端部はナデ調整され、その上部はヘラケズリで粗い調整で蓋か甕か高坏の台部もしくは脚部であろうか。2の須恵器有台坏は、底部回転ヘラ切り後高台を貼付される。4・5は輝石安山岩の磨石で端部に敲打痕もみられる。

本址は少ない出土遺物で時期は明確でないが、奈良時代の所産と思われる。

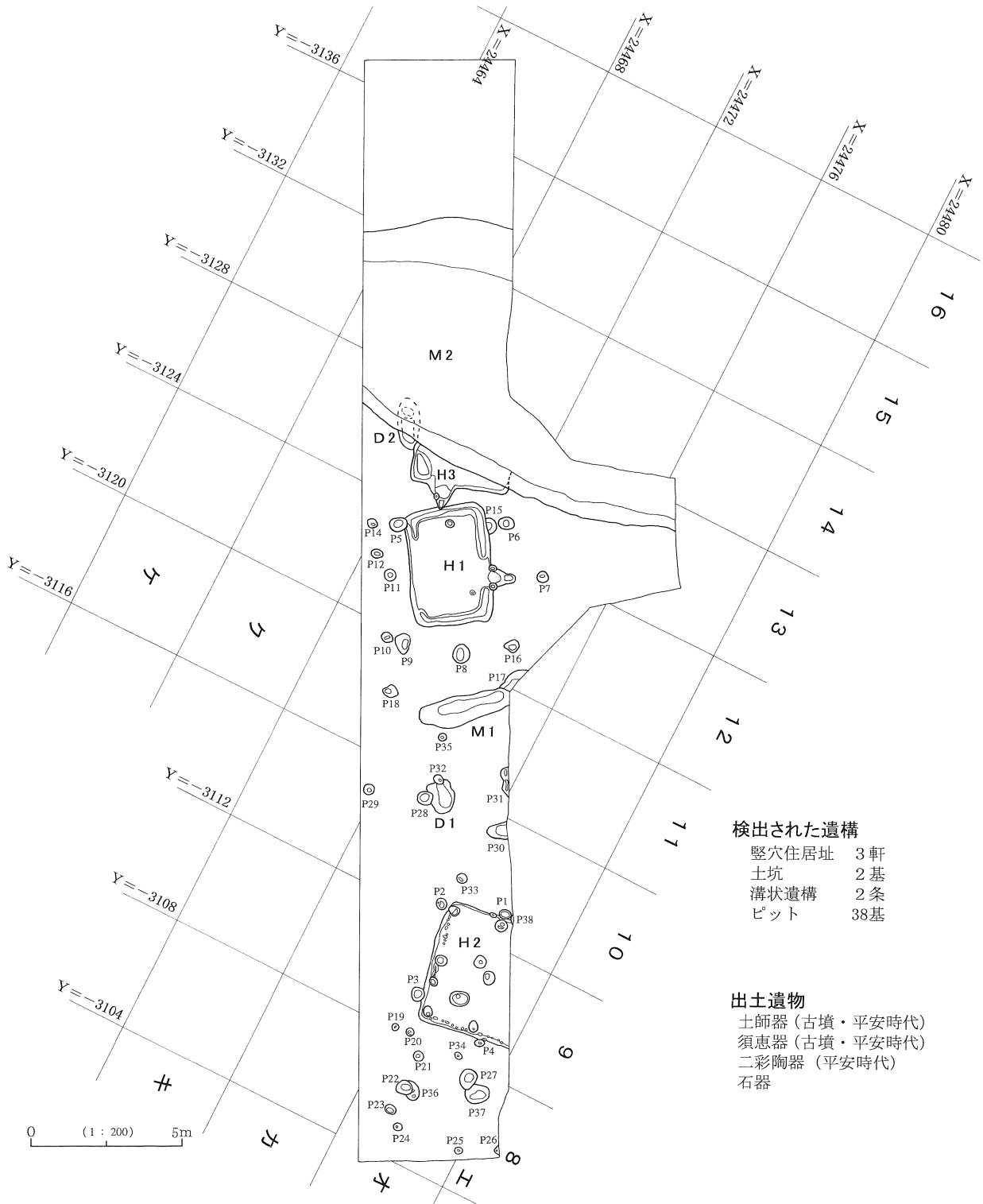
**H2号住居址** 本址は、オ・カー9・10Grに位置し、P1・P3・P4・P38に切られる。規模は南壁4.1m、東壁検出部3.2m、西壁検出部2.0mを測り、方形ないしは長方形であろう。最深20cmを測り、南北軸方位はN-8°-Wを示す。ピットは11個検出され、南壁直下にP4~P6が直線上に並び、対峙してP1~P3がある。柱間は東西1.8m南北1.6mの等間隔である。P1~P6は長径40~46cm短径30cm~38cm、深さ36~46cmを測る。P7~P9は深さ7~26cmである。P10の他に16個の小ピットが壁中や東壁南壁直下にある。調査範囲ではカマドや炉はみられない。床面は敲击締められず、所々凹凸がある。P1~P6や小ピットの在り方は、中世の竪穴状遺構に類似している。遺物は覆土最上部から黒色緻密安山岩製の大型打製石斧が出土した。他に須恵器・土師器の小破片18点があるが、時期不明。

**H3号住居址** 本址は、キ-13Grに位置し、M2に切られ、H1・D2を切る。規模は北壁検出部

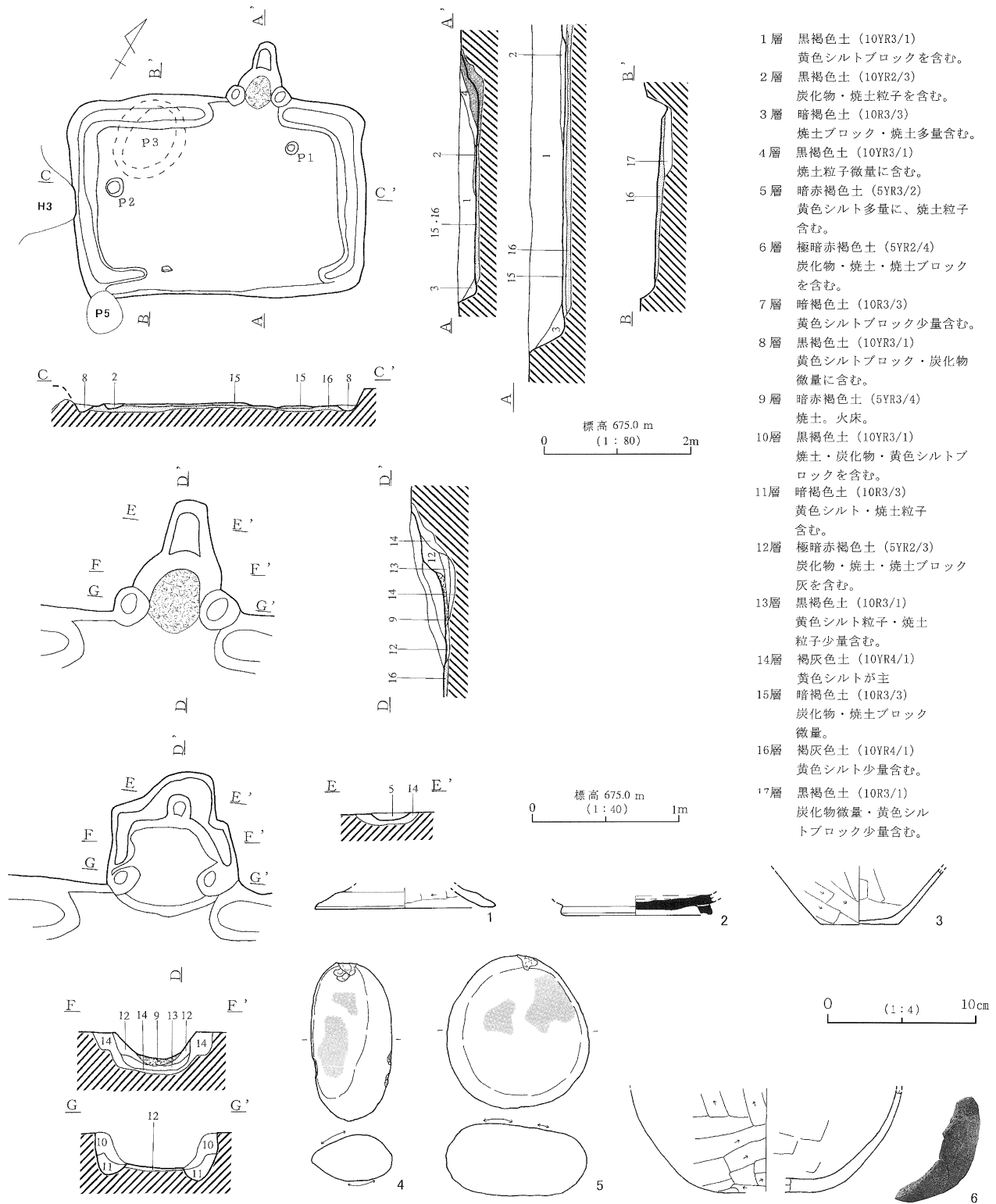


第3図 東五里田遺跡Ⅲ調査全体図

0.8m、東壁3.28m、南壁検出部1.4mを測り、方形ないしは長方形であろう。壁残高は最深18cmを測り、主北軸方位はN-75°-Eを示す。P1は長径100cm短径58cm深さ8cmを測る。床は平坦で固く敲击締められている。カマドは東壁の西寄りにあり、両袖の芯に円礫を用い黄色シルトで被覆して構築されていた。火床には焼土が残り、下部に少し焼け込んでいる。出土遺物には、須恵器、土師器、石器がある。1がP1脇床面、3~5がカマド出土した。3は土師器武蔵甕で口縁部ヨコナデ胴上部へ



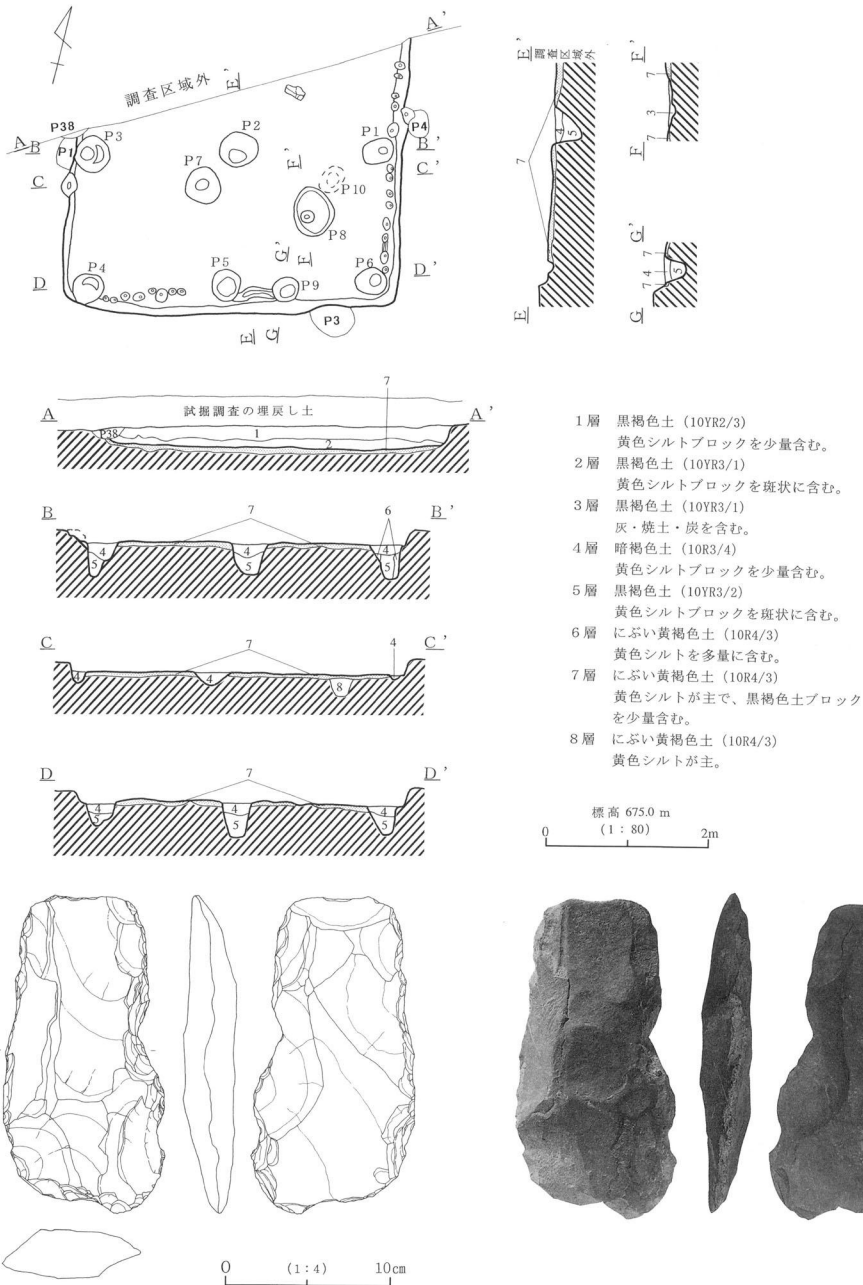
第4図 東五里田遺跡Ⅲ遺構全体図



第5図 H1号住居址実測図および出土遺物実測図

ラケズリされる。4・5は須恵器甕、5の口縁部には櫛描波状文が施文される。他にヘラケズリされ薄く整形された土師器武蔵甕の破片がある。1は輝石安山岩の磨石、2は花崗岩の磨石。本址は少ない出土遺物で時期は明確でないが、平安時代の所産と思われる。

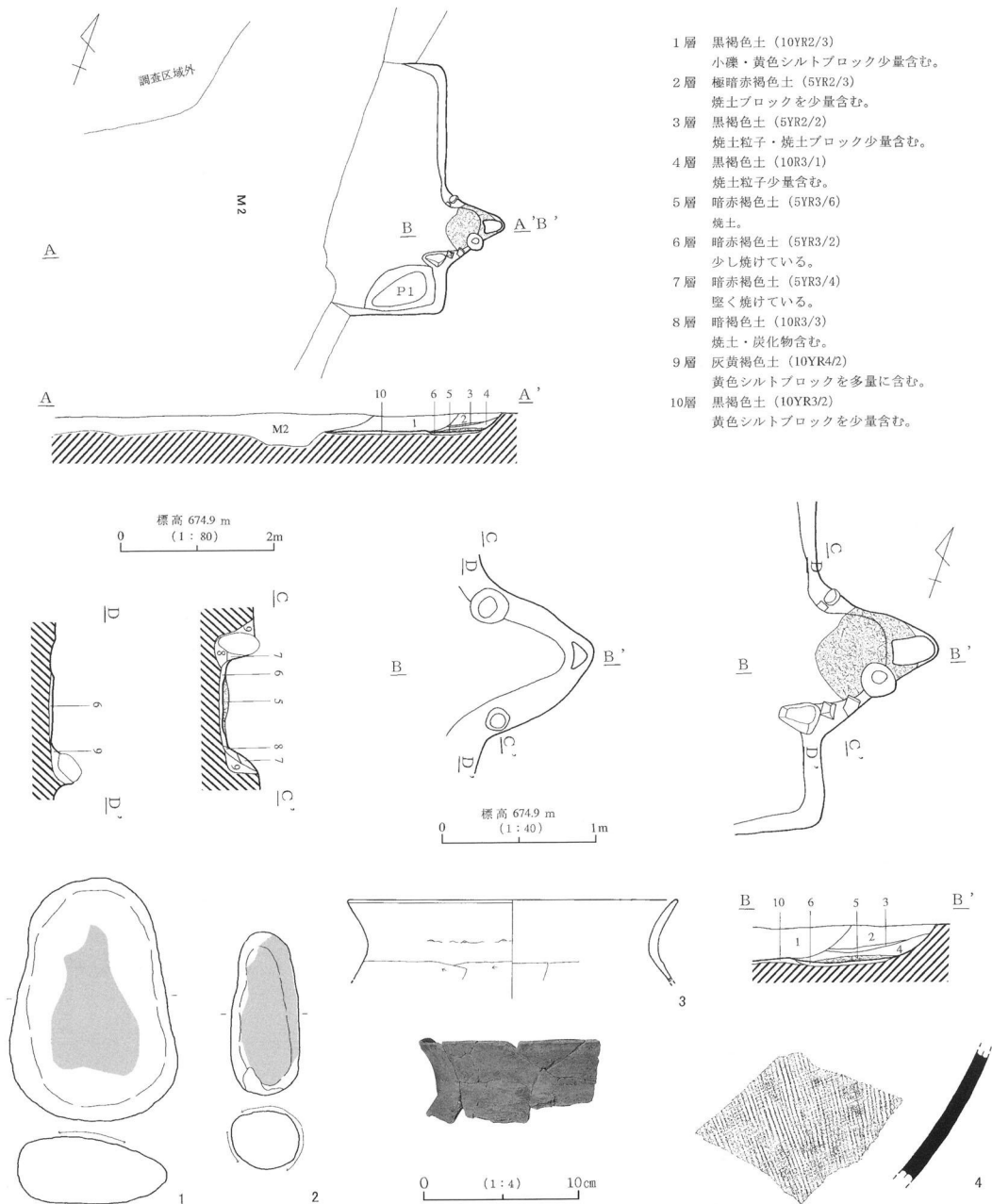
**D1号土坑** 本址は、カー10Grに位置する。P28・P32に切られる。長径1.1m短径0.8m深さ17cm、出



第6図 H2号住居址実測図および出土遺物実測図

土遺物はない。 **D2号土坑** 本址は、ク-13Grに位置する。M2・H3に切られる。長径1.7m短径0.7m深さ50cm、出土遺物はない。 **M1号溝状遺構** 本址は、カー11Grに位置する。幅0.8~1.0m検出部長3.1m深さ41~45cm、底面は凸凹している。下部の2層は固く締まっていた。須恵器坏小片が1辺出土。 **M2号溝状遺構** 本址は、オーク-13~15Grに位置する。幅8m前後最深80cm、鉄分を含むシルト・人頭大の円礫や小円礫・砂が堆積し、自然流路である。遺物は表紙の二彩陶器（平安時代）や図

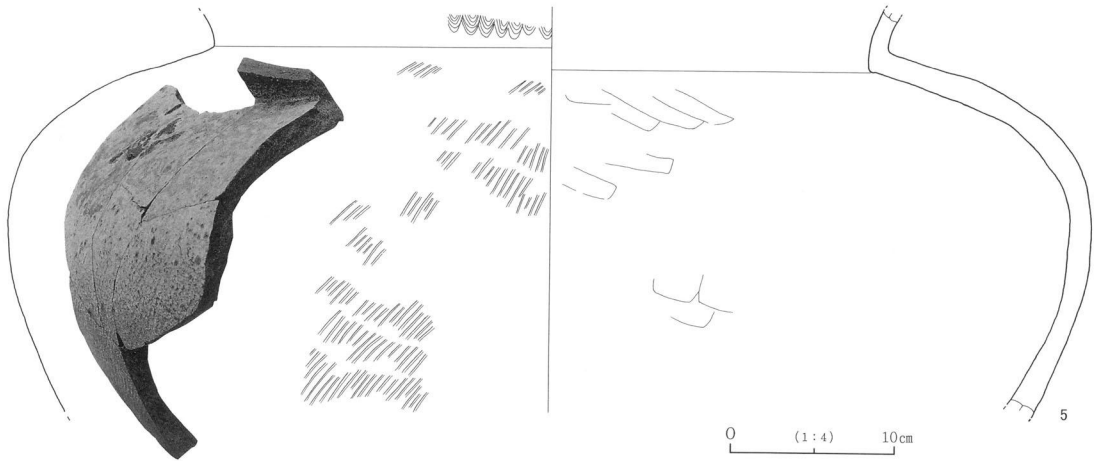
示した底部回転糸切りやヘラケズリされる須恵器坏・甕の他に多量の須恵器・土師器の小破片、古瀬戸灰釉おろし皿等中世陶磁器、川越焼等近世陶磁器、近代陶磁器、皇宋通宝等が出土した。ピット円形・楕円形のピットが38基確認された。H 1 に切られる P 15 は、奈良時代以前の所産である。P 3 から第10図の須恵器甕口縁部を加工した円盤と硬質砂岩製の打製石斧断片、P 15 から須恵器甕2片、P 5・P 16 土師器甕1片、P 10 須恵器坏1片が出土した。



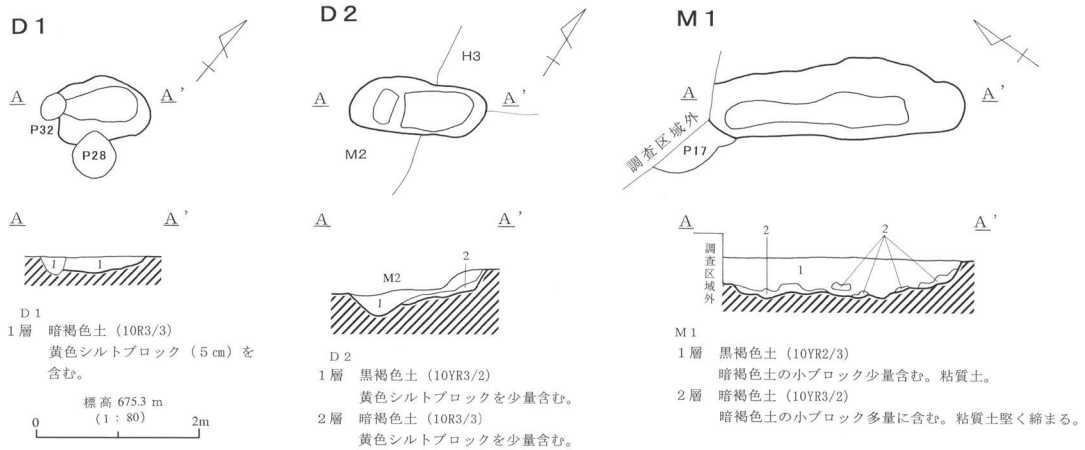
- 1層 黒褐色土 (10YR2/3)  
小礫・黄色シルトブロック少量含む。
- 2層 極暗赤褐色土 (5YR2/3)  
焼土ブロックを少量含む。
- 3層 黒褐色土 (5YR2/2)  
焼土粒子・焼土ブロック少量含む。
- 4層 黒褐色土 (10R3/1)  
焼土粒子少量含む。
- 5層 暗赤褐色土 (5YR3/6)  
焼土。
- 6層 暗赤褐色土 (5YR3/2)  
少し焼けている。
- 7層 暗赤褐色土 (5YR3/4)  
強く焼けている。
- 8層 暗褐色土 (10R3/3)  
焼土・炭化物含む。
- 9層 灰黄褐色土 (10YR4/2)  
黄色シルトブロックを多量に含む。
- 10層 黒褐色土 (10YR3/2)  
黄色シルトブロックを少量含む。

第7図 H 3号住居址実測図および出土遺物実測図

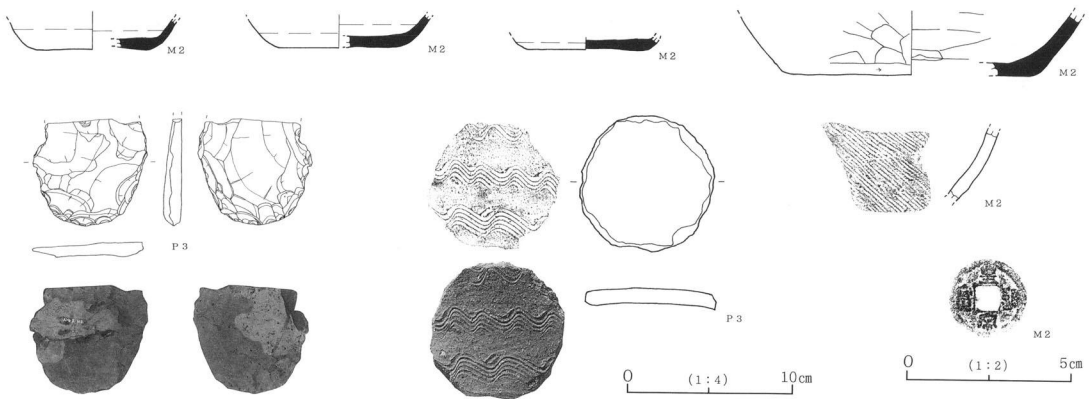




第8図 H3号住居址出土遺物実測図



第9図 D1号・D2号土坑およびM1号溝状遺構実測図



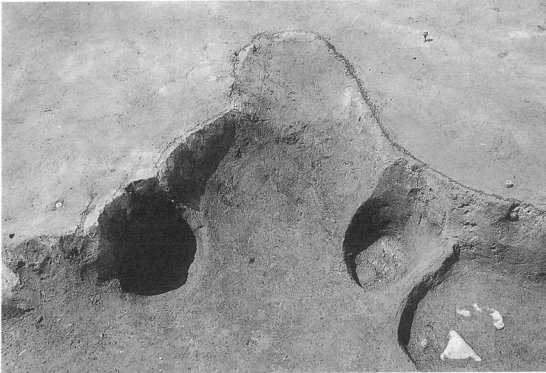
第10図 M2号溝状遺構・P3出土遺物実測図



H1号住居址（南方より）



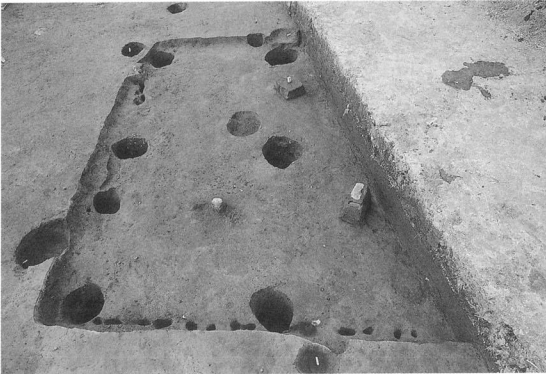
H1号住居址掘り方（南方より）



H1号住居址カマド（南方より）



H1号住居址カマド掘り方



H2号住居址（東方より）



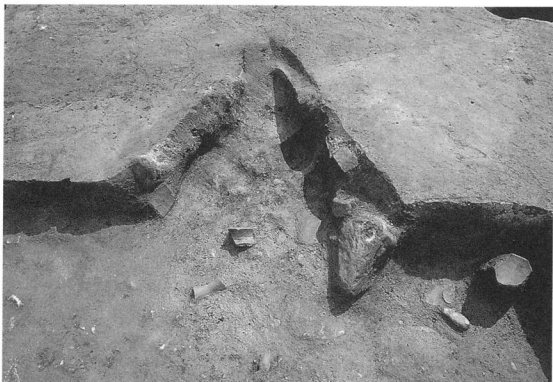
H2号住居址掘り方（東方より）



H3号住居址（西方より）



H3号住居址掘り方（西方より）



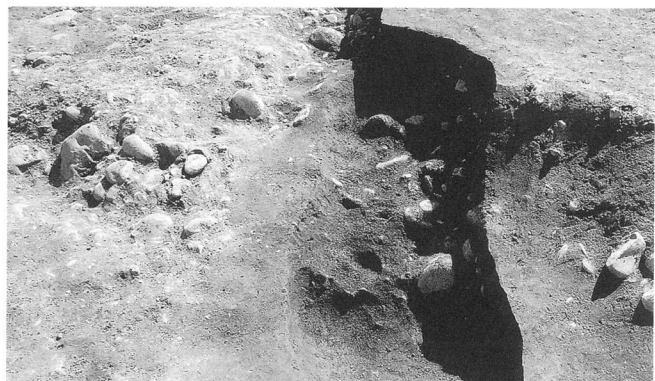
H3号住居址カマド (西方より)



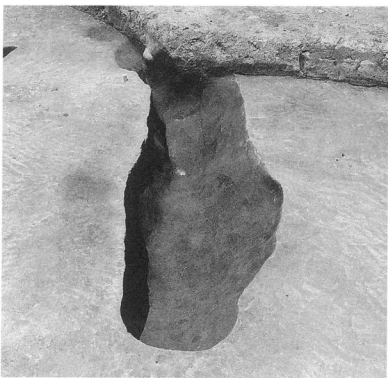
H3号住居址カマド掘り方 (西方より)



D1号土坑 (東方より)



D2号土坑 (西方より)



M1号溝址 (南方より)



河川 (南方より)



調査状況



H1号住居址付近調査状況

## 報告書抄録

書名	東五里田遺跡Ⅲ
ふりがな	ひがしごりた
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第151集
編著者名	林 幸彦
編集・発行機関	佐久市教育委員会
発行年月日	2008. 3. 31
郵便番号	385-0006
電話番号	0267-68-7321
住所	長野県佐久市志賀 5953
遺跡名	東五里田遺跡Ⅲ (NHGⅢ)
遺跡所在地	佐久市野沢 394-4
遺跡番号	423
経度	36° -13' -16." (世界測地系)
緯度	138° -27' -53." (世界測地系)
調査期間	2007.7.26 ~ 2007.8.27 (現場) 2007.11.25 ~ 2008.3.31 (整理)
調査面積	225㎡
調査原因	宅地造成
種別	集落址
主な時代	弥生時代~平安時代
遺跡概要	遺構 竪穴住居址3軒(古墳~平安) 土坑2基 溝状遺構2条 遺物 土師器・須恵器・二彩陶器・石器
特記事項	二彩陶器の出土は、貴重な資料となった。

---

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第151集

### 東五里田遺跡Ⅲ

2008年3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市中込 3056  
文化財課

〒385-0006 長野県佐久市志賀 5953  
TEL 0267-68-7321

印刷所 臼田活版株式会社

---